

船舶事故調査報告書

平成23年6月9日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 石 川 敏 行
 委 員 根 本 美 奈

事故種類	衝突
発生日時	平成22年10月16日（土） 12時25分ごろ
発生場所	大分県大分市大分港 大分港鶴崎東防波堤灯台から真方位079° 1,110m付近 (概位 北緯33° 16.9′ 東経131° 41.5′)
事故調査の経過	平成22年10月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	A 遊漁船 ^{しらたき} 白滝丸、4.0トン 294-15945大分、個人所有 9.90m (Lr) × 2.98m × 0.77m、FRP ディーゼル機関、169.20kW、平成3年1月30日 B モーターボート ^{いつめ} 五女丸、5トン未満 294-17003大分、個人所有 5.38m (Lr) × 1.95m × 0.87m、FRP ガソリン機関（船外機）、44.10kW、昭和63年4月
乗組員等に関する情報	A 船長A 男性 75歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成3年3月7日 免許証交付日 平成18年2月28日 (平成23年3月6日まで有効) B 船長B 男性 63歳 二級小型船舶操縦士 免許登録日 平成17年8月11日 免許証交付日 平成22年2月26日 (平成27年8月11日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	A 船首部擦過傷 B 船体中央部に割損を生じて転覆（全損）
事故の経過	A船は、船長Aが1人で乗り組み、遊漁客2人及び手伝いの知人2人を乗せ、船長Aが、操舵室左舷側の椅子に腰掛けて操船し、釣り場を移動するために大分港の大野川河口沖を約10ノットの速力で、手動操舵により西北西進した。 船長Aは、大野川から出航する船舶がなかったので、魚影があれば釣り

	<p>を始めようと思い、魚群探知機ばかりを見ながら航行中、平成22年10月16日12時25分ごろ、大分港内においてA船の船首部とB船の右舷中央部とが衝突した。</p> <p>B船は、船長Bが1人で乗り組み、知人1人を乗せ、大野川河口左岸端の北方沖300m付近（水深約30m）において、船首を北西方に向けて錨泊し、船長B及び知人が右舷船首部で釣りを行っていた。</p> <p>船長Bは、釣りに夢中になっていてA船の接近に気付かず、自宅への電話を始めてふと右舷船尾方を見たとき、約25mに接近したA船を認め、叫び声を上げたが何もできずに衝突した。</p> <p>B船は、衝突直後に右舷側に転覆し、船長Bと知人が海中に投げ出されたが、A船によって救助された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北西、風力 4、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の中央期</p>	
その他の事項	<p>船長B及びその知人は、いずれも救命胴衣を着用していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>A船は、大分港を西北西進中、船長Aが、大野川から出航する船舶がなかったので魚群探索に意識を集中し、見張りを行っていなかったことから、錨泊中のB船に気付かずにB船に向けて航行し、衝突したものと考えられる。</p> <p>B船は、大分港で釣りをしながら錨泊中、船長Bが、釣りに意識を集中して見張りを行っていなかったことから、衝突直前までA船の接近に気付かなかったものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、大分港において、A船が西北西進中、B船が錨泊中、船長Aが、見張りを行っていなかったため、B船に気付かず、B船に向けて航行し、両船が衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>	